

第17回

対面開催・参加無料

大原社研シネマ・フォーラム 上映会&トーク



課題は人間社会にある、
つまり解決のカギも
人が握っている。

劇場版 クマと民主主義



監督：幾島奈央 製作：HBC北海道放送 2025年／日本／74分

参加申込QRコード

会場

法政大学多摩キャンパス（町田市）
16号館 EGG DOME 5F ホール

日時

2026年12月16日（水）
17：20～19：20（上映時間74分）

上映

劇場版 クマと民主主義

17：30～18：45 上映

トーク・質疑応答

幾島奈央 監督

18：50～19：20 トーク・質疑応答

・参加費無料 ・要事前申込 ・どなたでも参加できます

主催・お問い合わせ先

法政大学大原社会問題研究所

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL：042-783-2305

E-mail：oharains@adm.hosei.ac.jp

作品について

劇場版
クマと民主主義

夕食のあと、家の外でガラスの割れる音が響いた。窓の外に見えたのは黒い影——ヒグマだった。「家の中に入ってくるかもしれない」。そんな恐怖の夜が、二か月にわたって続いたという。ようやく事態が落ち着いてきたころ、今度は村が頼りにしていたハンターたちが、突然姿を消してしまう。理由を、住民は知らされないままだった。

クマによる被害、ハンターを取り巻く制度上の制約、そして見えにくい政治の力学。7年前に北海道のある小さな村が直面した課題は、いま全国の自治体に共通する問題として広がりつつある。指定管理鳥獣への追加や法改正など、クマ対策が大きな転換点を迎えている今だからこそ、この村が歩んできた道のりのなかに、対策のヒントと、地域が合意をつくっていく過程そのものを見つめる。

本作は、HBCが2018年から重ねてきた取材をテレビドキュメンタリー3作（2019・20・24年放送）を経て再構成した劇場版。テレビ版は放送文化基金賞奨励賞・企画賞を受賞している。

スタッフ

監督	幾島奈央
編集	永井孝典
撮影	岡本貴寿 宮形徹 大内孝哉
VE	小関大輔
MA	西岡俊明
CG	長崎洸祐
製作	HBC北海道放送
プロデューサー	山崎裕侍
上映時間	74分
製作年	2025年／日本
©	HBC



クマに向き合うハンターたち



警察・猟友会による合同対応



住宅地近くまで迫るヒグマ



幾島奈央 (いくしま・なお) 監督

2018年、北海道放送（HBC）に入社。報道部で警察・司法取材を担当していたなか、配属2か月目にたまたま取材することになった1頭のクマとの出会いをきっかけに、各地のクマ出没・対策の取材に携わるようになる。取材を重ねるうち、クマをめぐる出来事背景には、いつも同じ構造の課題が繰り返し現れていることに気づいていったという。テレビドキュメンタリー「クマと民主主義」（2019・2020・2024年放送）で放送文化基金賞奨励賞・企画賞、「核と民主主義～マチを分断させたのは誰か～」でギャラクシー賞奨励賞、ラジオドキュメンタリー「隠された性暴力～28年前の少女からの訴え～」でギャラクシー賞奨励賞・日本民間放送連盟賞優秀賞を受賞。2021年からはデジタル推進部で、WEBマガジン「Sitakke」を通じて北海道の暮らしや価値観を発信するほか、2023年にはクマと人の適切な距離の取り方を伝えるサイト「クマここ」を開設し、啓発活動を行っている。

